



第80号
R2.12.10 発行

■編集・発行
田彦中学区地域づくりの会・広報委員会
TEL.029-274-5222 FAX.029-276-1609
〒312-0063 ひたちなか市田彦950-128
田彦コミュニティセンター内
[田彦コミセン](#) [検索](#)

背景は、日立AMS佐和工場南側通りより



第27回
田彦コミまつり
11月14日(土) 15日(日)
コロナに負けない!!

アマビエ元年! コロナ対策に万全を尽くし、十分な換気とソーシャルディスタンスを確保し、「地域の作品展」として、盛り上がりました。新たな試みが地域の形になりました。



**第3回 地域づくりの会
会長杯グラウンド・ゴルフ大会**
10月3日小学校グラウンドにおいて、コロナ感染対策に十分考慮し開催されました。
快晴の中、コロナに負けずに皆さん静かな闘志を燃やしていました。

	男子	スコア	女子	スコア	参加者 71名
優勝	武山 輝利	36	宮田 和代	39	
2位	譲原 健作	40	河合 みどり	40	
3位	高橋 敏夫	40	菅野 登志枝	42	





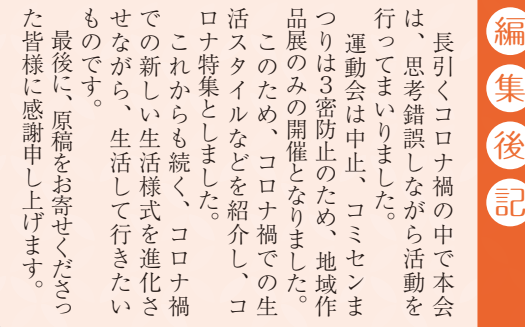
田彦東公園開園
7月に公園の芝張りを地域住民と行いました。(参加者約100名)



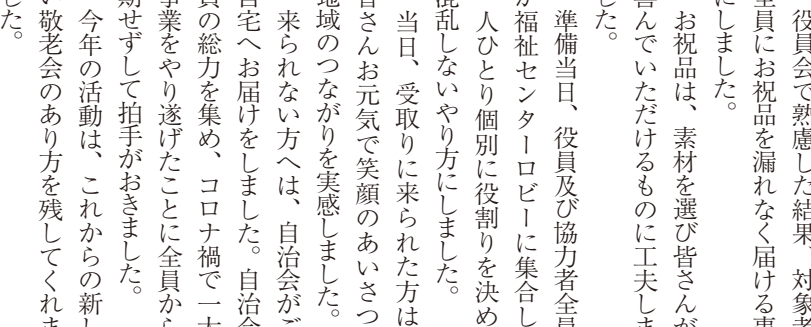
環境美化活動
環境部会
田彦コミセンを利用する方々がセンターの中庭や駐車場の清掃活動として年3回程度行っています。今年は、コロナの影響で5月、8月が中止になりました。
実施に向けて慎重に対策を講じ、11月のコミまつり前に行うことができました。当日は検温やソーシャルディスタンスを確保しながら楽しくできました。
(参加者78名)



出張「読み聞かせ・遊び」
青少年部会
毎年、田彦コミセンで行っていた「読み聞かせ」が新型コロナウイルスにより、開催を見合わせていましたが、感染防止策を講じながら各自治会内の公園を拠点とし、屋外開催にしました。
秋深まる自然の中で、屋外読みに加え、親子等で楽しめるグランドゴルフ、傘袋ロケット等の遊びも加えました。楽しさ倍増。コロナに負けない!



編集後記
長引くコロナ禍の中で本会は、思考錯誤しながら活動を行ってまいりました。
運動会は中止、コミセンまつりは3密防止のため、地域作品展のみの開催となりました。このため、コロナ禍での生活スタイルなどを紹介し、コロナ特集としました。
これからも続く、コロナ禍での新しい生活様式を進化させながら、生活して行きたいものです。
最後に、原稿をお寄せくださった皆様に感謝申し上げます。



役員会で熟慮した結果、対象者全員にお祝品を漏れなく届ける事にしました。
お祝品は、素材を選び皆さんが喜んでいただけるものに工夫しました。
準備当日、役員及び協力者全員が福祉センターロビーに集合し、一人ひとり個別に役割を決め、混乱しないやり方にしました。
当日、受取りに来られた方は、皆さんお元気で笑顔のあいさつ。地域のつながりを実感しました。
来られない方へは、自治会がご自宅へお届けをしました。自治会員の総力を集め、コロナ禍で一大事業をやり遂げたことに全員から期せずして拍手がきました。
今年の活動は、これからの新しい敬老会のあり方を残してくれました。

環境変化を経験し 感じるもの

田彦西自治会 平野 嘉良

「今日のコロナ感染者数は…」
この報道を聞かない日はない。
今では全国に感染者が広がり更なる感染予防が必要な時期にきている。コロナ感染が拡大する中、この春先から私の職場でも在宅勤務が始まっている。職種上、職場全体で一斉に実施している訳では無い。出勤するメンバーを最低限に調整し職場での感染リスクを抑制する最大限の対応を今も継続している。私自身も在宅勤務をする機会があるが、今ではコミュニケーションツールを活用し会議をしている。

これまでとの一番の違いは人と直接コミュニケーションを取る時間が少なくなった事である。人の表情を見て話をしないと相手の考えや気持ちがいかに伝わりにくいなど、難しい面も経験している。ただコロナ感染を今後も防止する為に

は、今の働き方、生活スタイルが将来は普通になり、この先も続くと思っている。自分としても在宅勤務のあり方を良く考えメリハリをつけた生活を意識して日々の時間を過ごしていきたい。



コロナによる 生活の変化

西大島自治会 (会員)

3月より学校が休校となりました。目に見えない新型コロナウイルスにより、あたりの日常が一変しました。

この頃は不要不急の外出は避けるように、買い物以外は出掛けることもなく、巣ごもり生活が始まりました。

まずは徹底した手洗いにマスクと毎日の検温が習慣になりました。毎年この時期は花粉症で悩まされていましたが、巣ごもり生活

コロナに負けない!



令和2年。東京オリンピック開催。全世界が日本に注目し、華々しく輝く年と誰もが想像していた。年明け早々に新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい世界が一変、すべてが止まった。誰も答えを持たない中、次の時代へと急速に変化が進む。

新しい生活様式、テレワーク、オンライン学習、ニューノーマル、デジタル改革・・・新たなビジネスモデルやコミュニケーション方法が生まれ、変化が変化を呼んでいるようだ。説明されてもよく分からない。

一方でコロナによる自粛が続き、雇用環境や精神不安、経済格差が生まれ社会に暗い影を落としている。

こういう時に地域の皆さんがコロナ禍をどう過ごしているか? 困ったこと・工夫したこと? 皆さんの思いを集めて記録にしました。

コロナ禍でもつながり を実感できる学校に

田彦中学校長 橋本 清文

本校では、これまで田彦小学校と連携して教育活動の中で子どもたちの「居場所づくり」「絆づくり」を工夫してきた。

今年度もこの取り組みを大事にしたいと、令和二年度がスタート。ところが、入学式を挙行した直後に休校が決定。

つながりを大切にしたい授業、学級経営、学校行事等の計画も、生徒がいなくては進めることができない。



悔しさのその先へ

田彦中三年 高野 愛音

総体中止...
これは私にとって大きな衝撃でした。中学入学を機に始めたバレーボールなのに。新型コロナウイルス感染防止のために練習の機会が

により症状も軽く済んで良かったです。

また、夫の仕事量も少し減った分、帰りが早く、家族揃って食事を囲むことが多くなり、悪いことばかりではないと思いました。

わが家で心掛けていた事は、学校がある時と変わらない生活リズムで過ごすようにしました。

学習面では、学校からの課題もやりながら、タブレット学習にも取り組んでいたため、学習への不安は大きく大変助かりました。

まだ不安な状況ではありますがこれからも細心の注意を図りながら、今までの変わらない生活を送りたいと思います。

コロナ禍・私の生活

大島公園西 高橋 正二

中国で発生し、世界中に広まった新型コロナウイルス。日本ではクルーズ船ダイヤモンドプリンセスの乗客が最初のように、その後感染者が増加し始めてもあまり気にもせず

過ごしていました。

3月の中旬に市内でも最初の感染者が発生し、新聞やテレビで報道されコロナの恐ろしさを実感しました。心配した家族の要望でマスクの着用、手洗い、うがいの励行と3密回避でスポーツジムのしばらく休会しました。

4月に入りいろんな会の総会が中止となり、年間行事の案内で多くの知人との顔合わせの場がなくなった事を寂しいかぎりです。

そんな中、長年続けている家庭菜園や庭の植木草花の手入れに夢中になり、汗しておいしい食事と快眠で退屈もせずいられると思います。

この先しばらくの間コロナとの



戦いが続くことでしょうが、予防ワクチンの効能でコロナの収束が早まる事を祈るばかりです。

コロナと共存

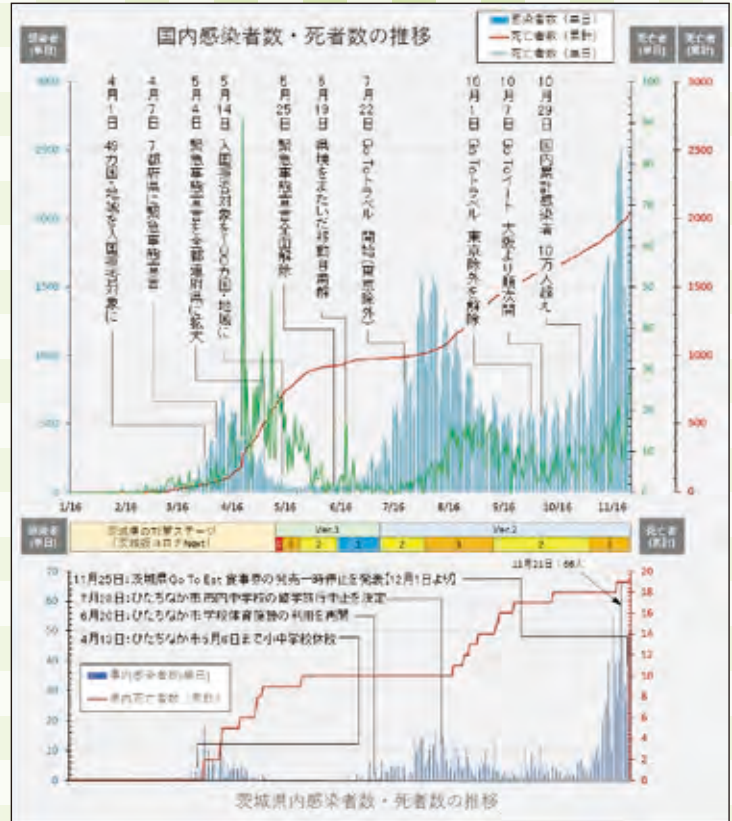
田彦東自治会 菅原 公子

ある体操教室の会話です。体操も生き生きとしてやっています。休まずに来ているということは、健康である証拠、そこで皆さんにコロナ禍の中で、どのように生活が変わったかをお聞きしました。

- ・マスク着用と皮膚荒れ対策
- ・自宅に消毒液の常備と手指消毒
- ・店のカーットの持ち手まで消毒
- ・外出を控えコロナ太り
- ・お悔やみがあっても参列自粛や家族葬等...

たくさんのお話を聞くことができました。日常生活の中でコロナとの共存を感じました。

今までの違う生活を余儀なくされている現在、自分なりの健康法を見つけコロナに負けない様、この危機を乗り切って行きたい。



もバレーボールを続け、今度こそ完全燃焼したいと考えています。高校バレーではコロナなんて関係なく、思いっきりプレー出来る事を願って。

コロナ禍で思う事

田彦中三年 大貫 尚哉

僕は今年の七月まで田彦中学校の卓球部に所属していました。昨年の新人戦では部員みんなで頑張り団体戦において県大会で優勝する事が出来ました。

今年の三月に愛知県で開催される全国選抜大会に参加する予定であり、メンバー一丸となって練習

